

サッカーを通して観る日本・アメリカ・メキシコの文化と社会

フリオ・テジェス

カリフォルニア州立大学モントレイ校

要旨

世界の中でもサッカーは最も人気があるスポーツの一つだと言える。サッカーはイギリスが発祥地だが、いまでは日本やアメリカそして南アメリカの国々でも大人気になっているのがよくわかる。また、それぞれの国において、サッカーはただ単にスポーツとしてだけではなく、人々の人生にも深い影響を与え社会を反映している事が人々の意識を通して理解できるかもしれないと思った。そこで、このキャプションストーンでは日本、アメリカ、メキシコの人々のサッカーに対する認識が、それぞれの生活に対する考え方にどのように関連づけられるのかについて、3ヶ国語（日本語、英語、スペイン語）でアンケート調査を行い、人々のサッカーに対する意識を理解しようと試みた。結果として、3つの国の文化が人々の考え方に強く影響を与えているということがわかった。

はじめに

約200年前のイギリスで、世界で最も人気があるスポーツであると言えるサッカーが始まった。サッカーは世界各国に広がった、現在は、世界では209の国際サッカー協会がある。その上、2006年に242万のサッカー選手が居た、しかし、その量が2006年に増加した、その時までには265万サッカー選手が居た。そして、サッカーは、様々な文化と社会をつなげるためのツールとなってきた。また、サッカーを通して、それぞれの国の文化や社会を垣間見ることができると言えよう。

1. 研究の重要性

私は3つの国に住み機会があった、メキシコ・アメリカ・日本にも住んだ。その国々に住んでいた時、人々の行動を見ることが出来た、しかしそれだけではなかった、

サッカーを通してその人たちの態度と行動を分析した。サッカーと社会の影響に興味があった、日本人のサッカーとメキシコ人そしてアメリカ人のサッカーに対する考え方が違うと思った。だから、この研究を通して、3つの国の文化が人々の考え方にどのように影響を与えているかどうかを調査したいと思った。

2. 研究質問

1. サッカーはどのように3か国の若者に影響を与えているのか。
2. サッカーの人気にはどのような要因があるのか、またそれは3か国間でどのように違うのか。

3. 研究背景

3.1. サッカーの歴史について

サッカーの歴史は長く、イギリスが発祥地だ。そこから、日本やメキシコそしてアメリカに広がった。日本で最初にサッカーが正式に紹介されたのは1965年だ。日本サッカーリーグ（JSL）が創設された。しかし、第二次世界大戦の後でJSLは消え、三十年後新たにJリーグが始まった。代わりに、メキシコでサッカーの起源は、1902年に遡る。しかし、二年前新しい形式になった。現代のリーグはリーガMXという名称だ。最後に、1884年アメリカフットボール協会が創設され、MLSが1996年に始まった。それは、アメリカのプロサッカーのリーグだ。

3.2. サッカーと教育

この研究を通して、教育とサッカーのつながりが大事だ。しかし、3つの国に色々な要素は教育とサッカーに影響を及ぼし気づいた、暴力的な時代に、スポーツは人生で成功するために子供や若者に夢をあたえている（Pereztrejo, 2014）。彼女の意見はメキシコの社会の意見を反映していると思われる。アメリカでは、子供たちにスポー

ツを通して成長してもらうために、政府と色々なスポンサーが奨学金を寄付している (Scholarshipstats.com)。しかし、その奨学金を受け取ることは難しいと思われる。

3.3. サッカーと社会について

サッカーはそれぞれの国の社会を反映しているともいえ、サッカー場でも、人種差別や暴力やギャンブルなどの社会問題がある。メキシコでは暴力が大問題だ、その暴力を止めるために、政府はサッカーフィールドを建設する (Althaus, 2011)。アメリカにも、暴力がありますが、アメリカ人の意見はアメリカの社会でも、スタジアムでも、暴力が絶対に認められない (Goff, 2008)。日本の J リーグにも暴力と差別は絶対に許さない精神がある、そして厳しい罰に課せられた (FIFA.com)。

3.4. スポーツを通してのナショナリズムと愛国心

スポーツは、様々な方法で、個人・グループ・また、自分たちの国のアイデンティティを作るための、ツールだ (Sasada, 2006)。特に、サッカーはその力を持つと言える。なぜならサッカーを通して、国際的なライバルが現れた。例えば、メキシコ対アメリカ、日本対韓国などだ (Yasaki, 2003)。

3.5. サッカーと男子の役割

以前にサッカーがイギリスで始まったと書いた、初めにサッカーは男子のためのスポーツだった、しかし 1895 年最初の女子サッカーのゲームがイギリスで行われた。ボールを蹴る女子は見苦しくない。特にスカートを脱いだ後で自分の体が動かす、サッカーが出来る (FIFA.com, 2014)。最近、3つの国の女子サッカーの代表はいろいろな成功を成し遂げたといえます。特に、ワールドカップで優勝した日本の「なでしこジャパン」と準優勝したアメリカのチームが有名です。しかし、女子選手は色々な面でもいまだに苦勞しています。これは性差別です。メキシコで多くの人々は女子サッカー選

手を見て、彼女たちを責めて、残念ながら、人々はサッカーが男子のためのスポーツだと思っている (Reinares, 2011)。

4. 研究

4.1. 調査の対象

この調査には65人の大学生に参加してもらいました。内訳は日本人22名、アメリカ人20名、メキシコ人23名であった。

4.2. 調査方法

アンケート調査用紙を日本語・英語・スペイン語で作成し、オンラインでデータを集めた。

5. 結果

5.1. 研究質問1：サッカーはどのように3か国の若者に影響を与えているのか。

まず、研究質問1に答えてもらう、いくつか質問を聞いた。最初の質問には参加者がいつサッカーの練習を始めたのか、質問した。

図1：サッカーの経験

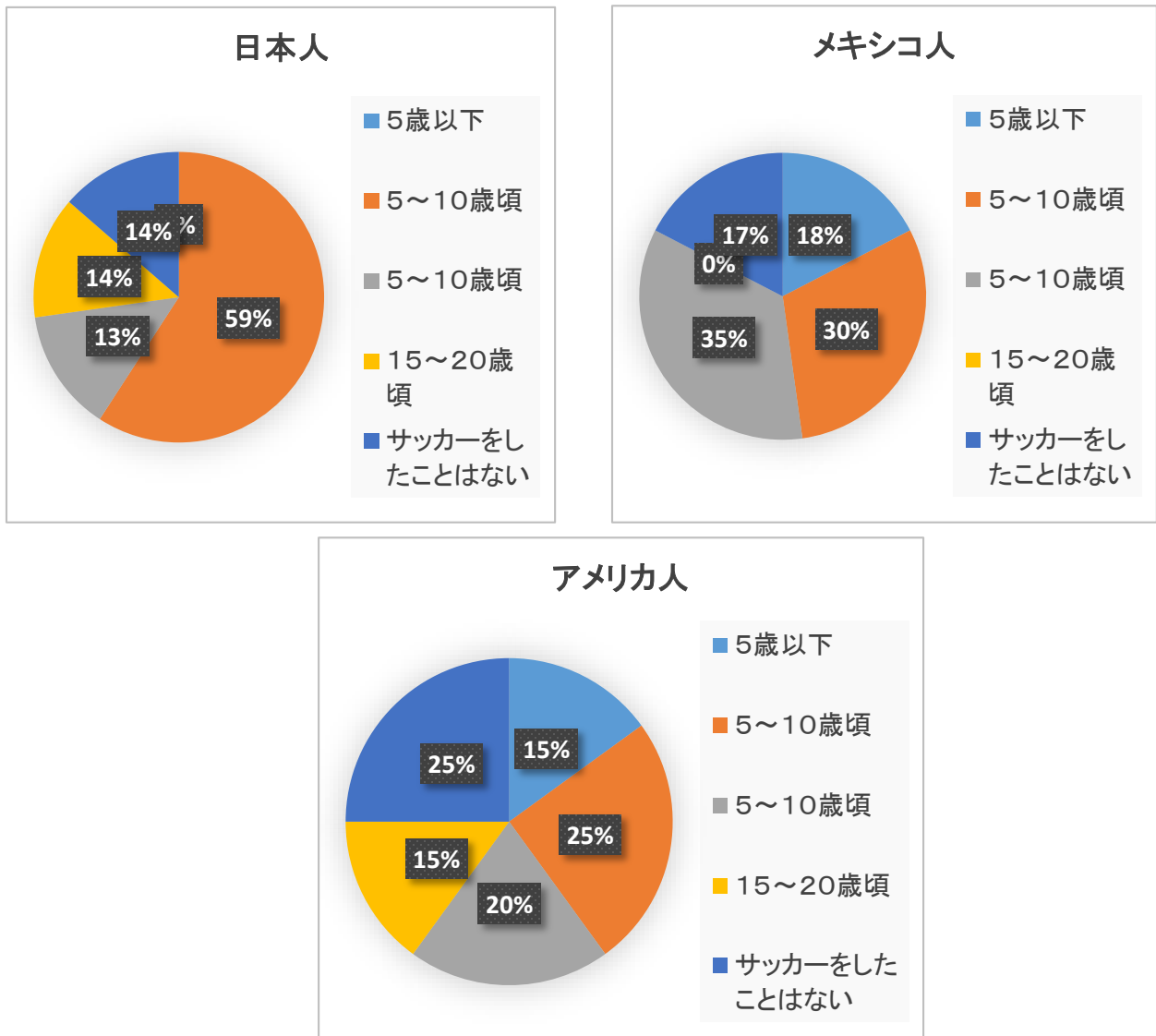
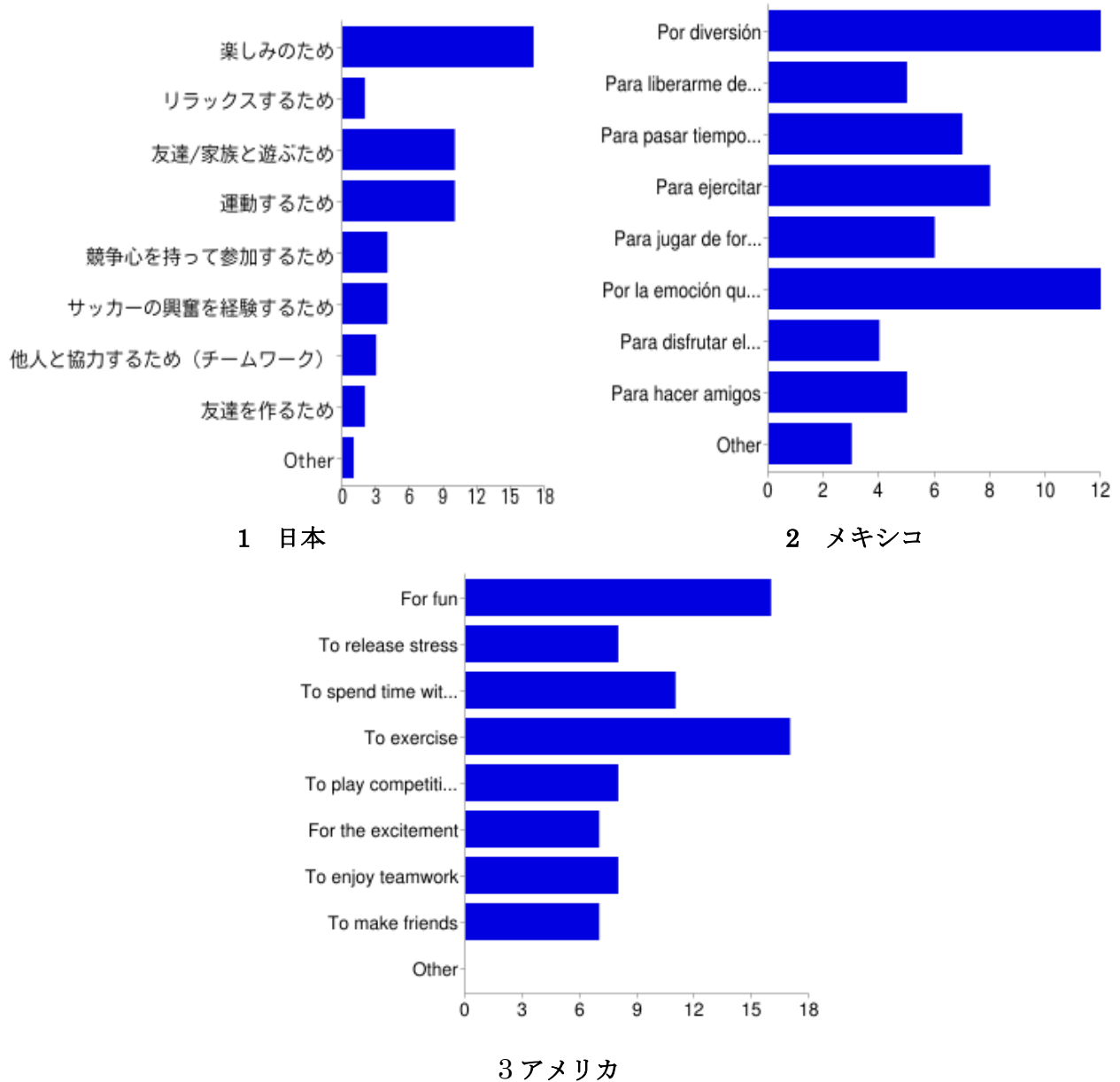


図1からわかるように、メキシコ人とアメリカ人は、非常に小さいうちにサッカーを始めるのに、日本人は5歳以降にサッカーを始めるようだ。

次に、参加者がサッカーをする理由を知りたいと思った。この質問を答えるために、参加者はいくつかの選択から選ぶ事が出来た。

図 2 : サッカーをする理由



結果は非常に興味深いものだった、一般的に「楽しむためにサッカーをする」、と答えた回答者が多かった、しかし、メキシコ人は「サッカーの興奮を経験したい」、アメリカ人は「良いエクササイズ」として捉えている (図 2 参照)。

人生の中で、親が子供に与える影響は大事です。そこで、「お父さんからサッカ

一を見る事／する事に影響を与えられましたか。」という質問があった。

図3：親の影響

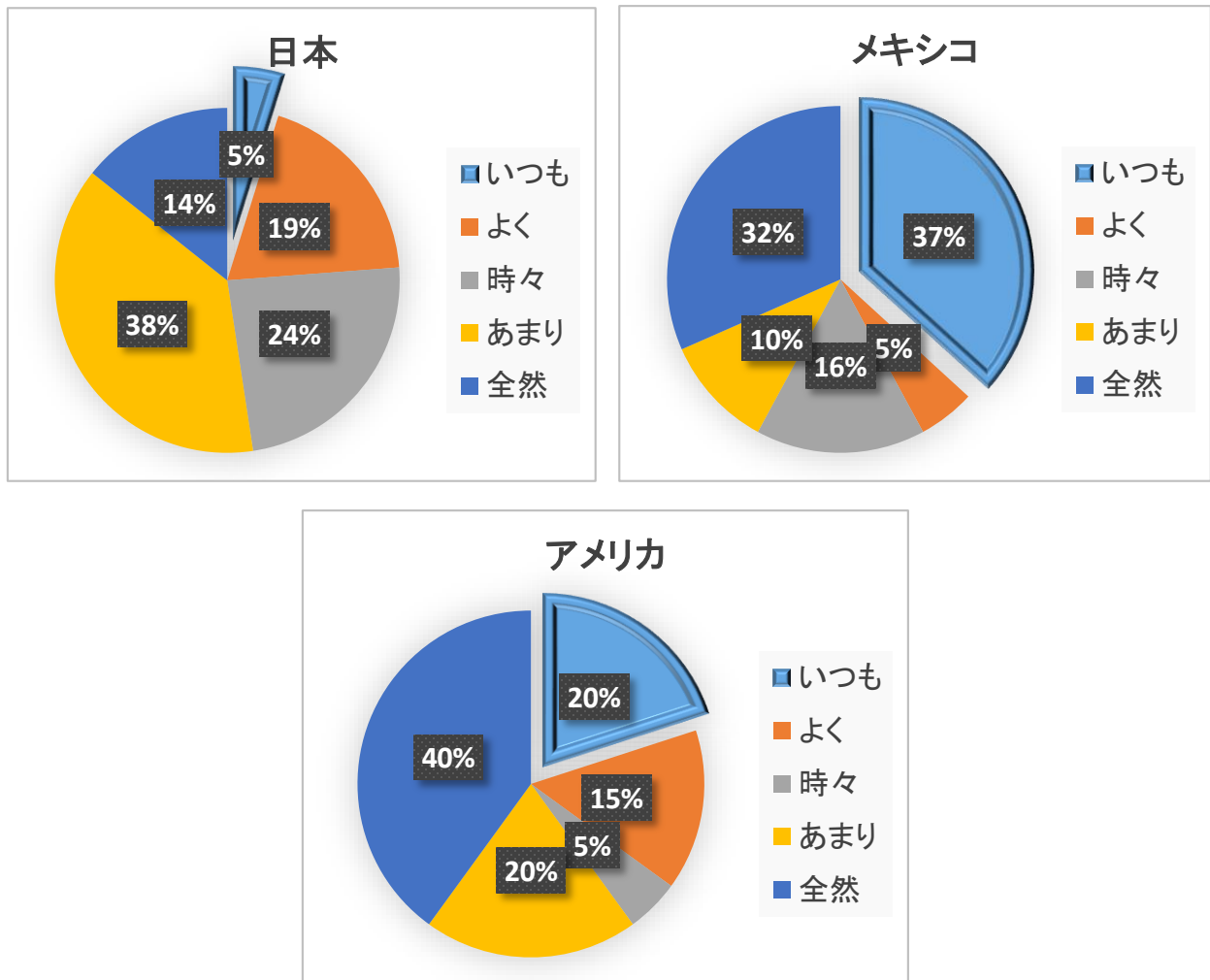
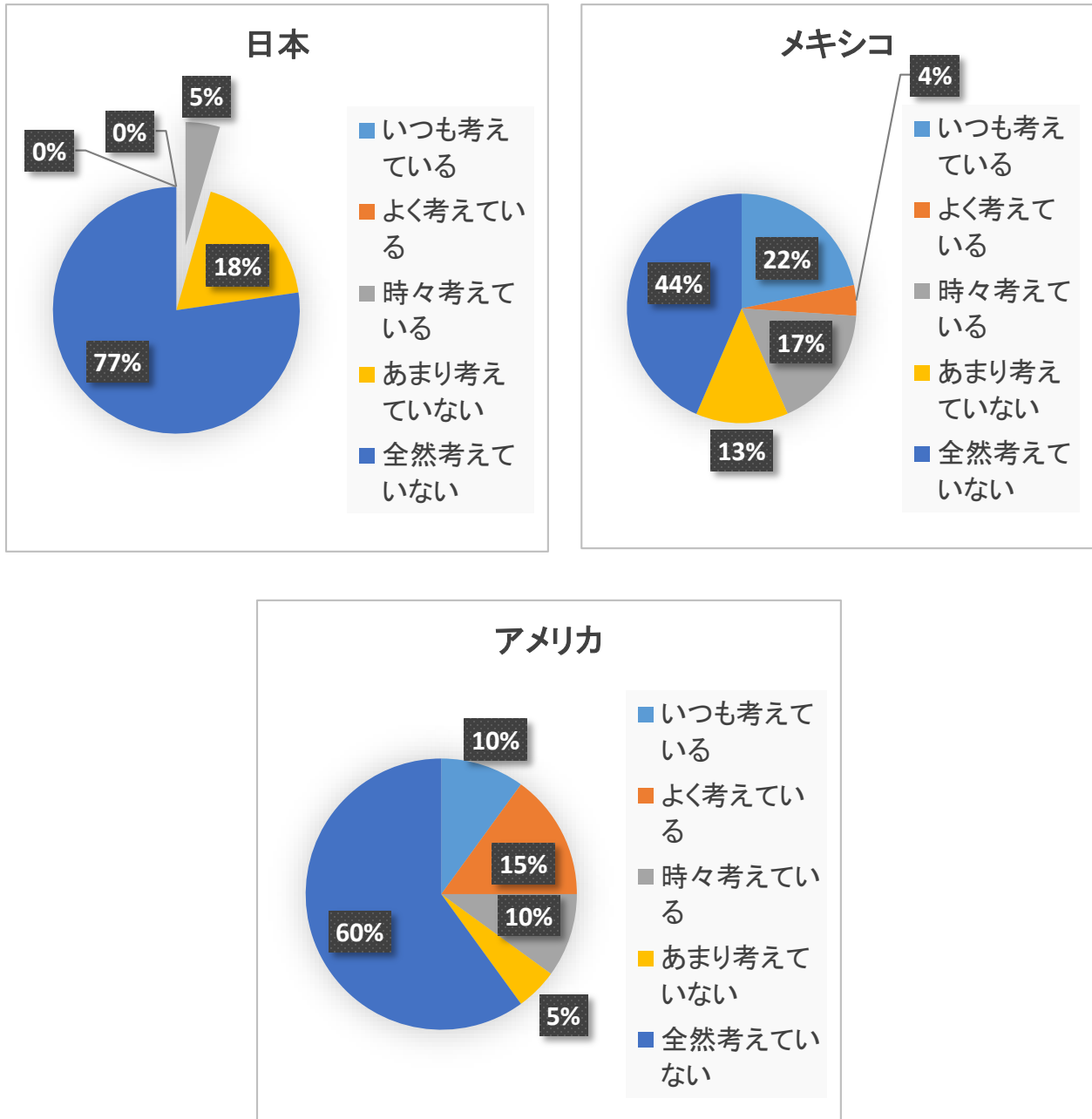


図3からわかるように、メキシコ人は父親に深く影響を与えられたと答えた、一方で、日本人とアメリカ人はサッカーをするにあたって、あまり父親の影響はないようだ。メキシコ人の私にとって、これは驚くべき結果ではなかった。更に、メキシコに長い間住んでいたのも、やはりその行動がよく見えた。

参加者は子供の頃にプロサッカー選手になろうと思ったかもしれない、その間を答えるためには参加者に聞いていた。参加者の答えから不意の結果が出た。

図4：プロ選手になること



驚いたことに、日本人は、プロになる事に興味がないように思われる。しかし、メキシコ人の43%とアメリカ人の35%はプロになることを考えた事があるという結果になった（図4参照）。

3つの国の経済を比べる場合、メキシコの経済が一番弱い、そんな理由で、多く

のメキシコ人がその機会を検討したことあったかもしれなと思われた。しかし、本当の理由聞いた時、メキシコ人と日本人そしてアメリカ人も他の理由を選んだ。

図5：プロになる理由

選択	日本	メキシコ	アメリカ
お金持ちになるため	10%	16.7%	18.2%
旅行するため	0%	5.6%	9.1%
サッカーが好きだから	60%	55.6%	63.6%
楽しみのため	20%	11.1%	0%
有名になるため	10%	11.1%	9.1%
その他	0%	0%	0%

図5からわかるように、その理由として、アンケート調査の結果に、大部分の回答者がサッカーのプロ選手になる主なモチベーションにとって「サッカーが好きだから」を選んだ。

メキシコ人にとって、お金はそんな重要な理由ではなかった、だから私の先入観に対して、日本人・アメリカ人・メキシコ人の最も大切な理由は同じだった、その違う結果が出た事には少し驚いた。

今まで、3つの国の参加者の答えは似ていると思われたけど、「プロになるため

に一番必要な要素は何か」について調べた時、結果はずいぶんかわかった。いくつかの要素のリストを入れ、色々な言葉から参加者が選べた。参加者の一番人気な選択がどれだろうか。

図6：プロになる要素

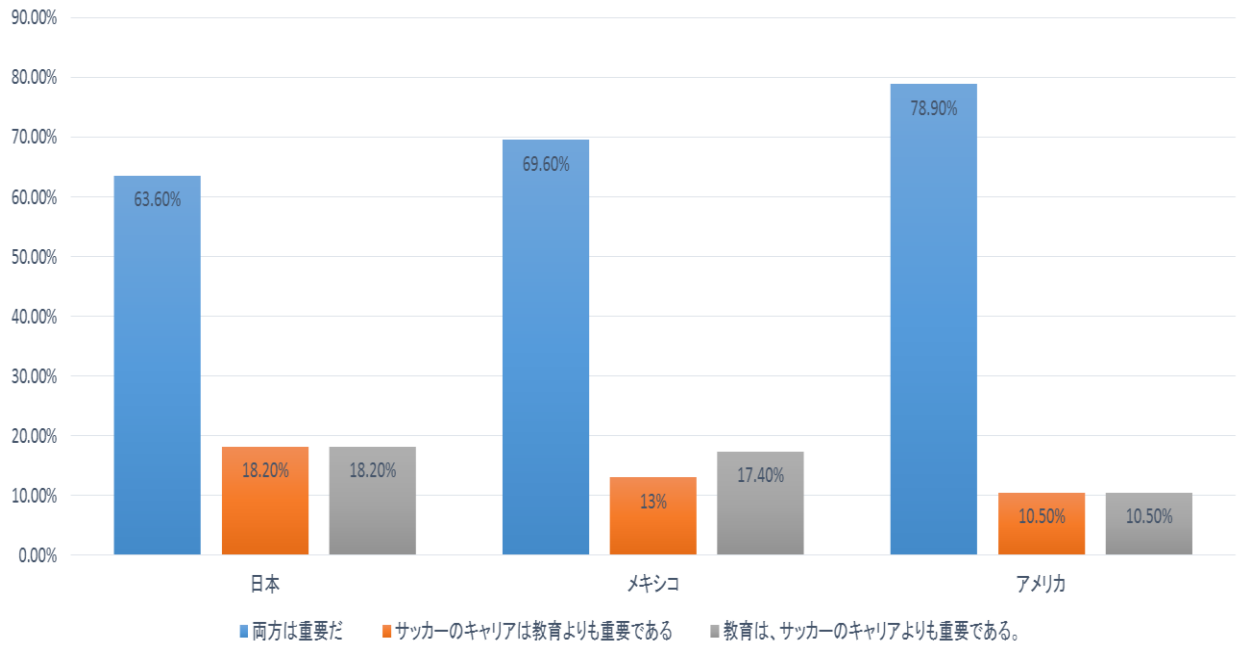
選択	日本	メキシコ	アメリカ
才能	40.9%	34.8%	36.8%
決断力	13.6%	4.3%	10.5%
自制心	4.5%	4.3%	15.8%
お金	0%	17.4%	21.1%
コネ	0%	39.1%	15.8%
その他	40.9%	0%	0%

「才能」と答えた人が多かった、しかし、メキシコ人は「コネ」と答えた人が最も多かった。更に、多くの日本人参加者は「その他」を選んだ（図6参照）。その他の答えの中で、努力や行動力や運などがあつた。

次に、運動と勉強の両立、またはスポーツと教育の関係は非常に大切だと思う。参加者の意見を聞きたいと思った。図7からわかるように、3つの国の参加者にとって、サッカーのキャリアも教育も大切だ。

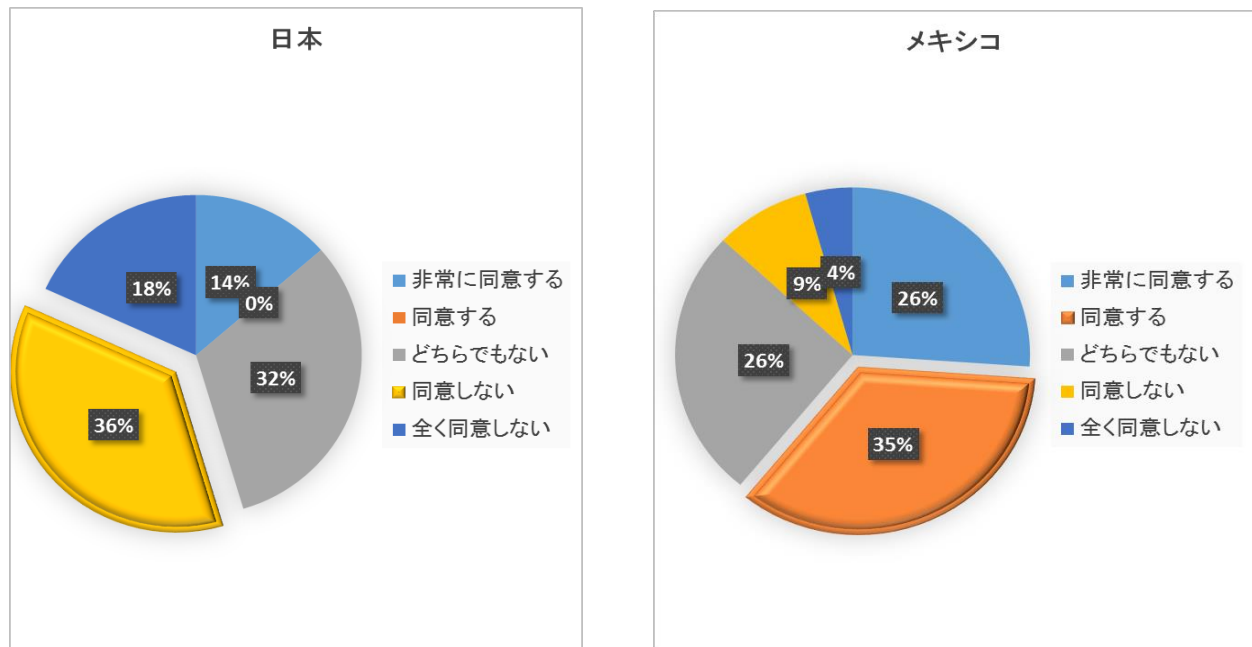
図7：サッカーと教育

サッカーと教育



3つの国の社会で、悪いことがあるのに、スポーツがその悪いことを消すためのツールだと思う。しかし、多分参加者は他の意見を持つかもしれない。

図8：サッカーはドラッグなど悪いものに関わらないように使われる



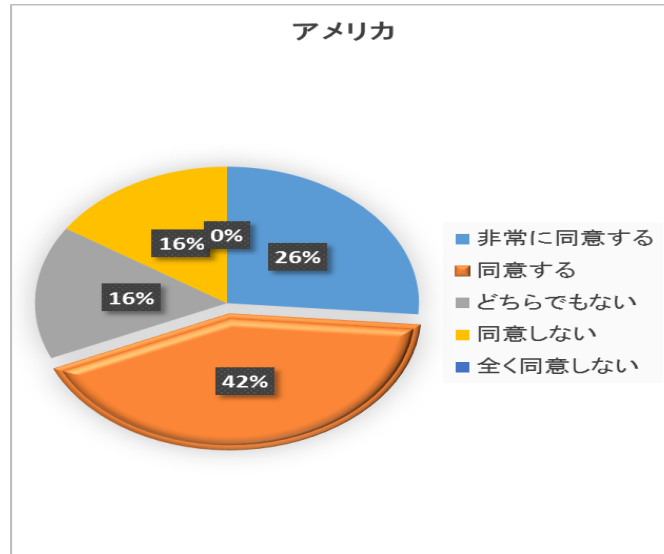


図8からわかるように、メキシコ人の61%とアメリカ人の68%が、サッカーはドラッグなどに関わらない為のいい手段だと答えた、一方で、日本人ではその意見に賛成したのはたったの14%だった。

次に、「あなたの国では、サッカーは下記のどのよう理解されていますか。」という質問には、いくつかの答えのオプションがあった。オプションの中で、3つの国の回答者が異なった答えを選んだ。

図9：3つの国でのサッカーの位置づけ

サッカーは。。。	日本	メキシコ	アメリカ
ビジネス	#3	#1	
フェアプレー	#1		
集団主義			
ショー	#2	#2	#3
マフィア			
自己満足			#1
名声		#3	#2

日本人にとってサッカーは「フェアプレー」であり、アメリカ人にとっては「自己満足」、そしてメキシコ人にとっては「ビジネス」を表す、という非常に違う結果が出た（図9参照）。

5.1.1 研究質問1の結果まとめ

アメリカとメキシコでは、子供たちが早めにスポーツと接触するように励んでいる。更に、アメリカ人にとってサッカーは良い運動として考えられている。次に、メキシコ人がサッカーをするきっかけは父親に深く影響を与えられている。逆に、日本人とアメリカ人がサッカーを始めた理由は、自分自身のきょうみだとしている。プロ選手になるためには、「才能」が重要だというのが一般的な意見だった、しかし、メキシコ人の大部分にとって「コネ」が最も大切だということがわかった。驚いたことに、日本人の参加者の大部分が、サッカーをドラックなどの悪いことに走らないために利用するとは思っていない。最後に、サッカーは日本ではフェアプレー、アメリカでは自己満足、メキシコではビジネスと位置づけられている。

5.2. 研究質問2：サッカーの人気にはどのような要因があるのか、またそれは3か国間でどのように違うのか。

最初の質問と同じこの質問を答えるために、色々な問を作っていた。ここに、結果を表す。まず、「国際チームと国内チームでは、どちらの方が好きですか。それはどうしてですか。」という質問があった。

図 10：国内のチーム対海外のチーム

日本	メキシコ	アメリカ
国際チーム 試合のレベルが高いから。	ビッグネームの多い海外のチームがすきです。プレーの豪快さもすきです。	国際チームは、国内チームよりも優れている
国際チーム スタジアムの雰囲気が良い	国際。レベルが高いので見ていて面白い。	国際、国内はつまらないだから
国際チーム なぜならワールドカップなどで大規模に盛り上がり、わかりやすいから	国際チームは、私にとってもっと「プロ」の感じがある、そしてそのチームを見る時に興奮している。	国際。国際チームのスタイルや健康な体力や才能レベルは、日本人選手よりも優れるだから。
国内チームには地元クラブチームがあるので愛着がある	国内、メキシコのクラブを応援しなければならない	国内、自分の所に近いから
国内チームの方が、日本育ちのプレイヤーを多く見られて馴染みがあるから	国内、なぜなら全員がメキシコ人だ、外国人がいないから	幼い頃から、私の一番が好きなチームが国内チームだったから

国内のチームを選んだ人は、チームや選手に馴染みがあるからというのが理由だった。国際チームを選んだ人はプレイの高いレベルが好きようだ（図 10 参照）。

参加者に、サッカーのワールドカップの間に、どこの国の代表を応援するのか、知りたかったから、それを少し調べた。

図 11：スポーツのイベントとナショナリズム

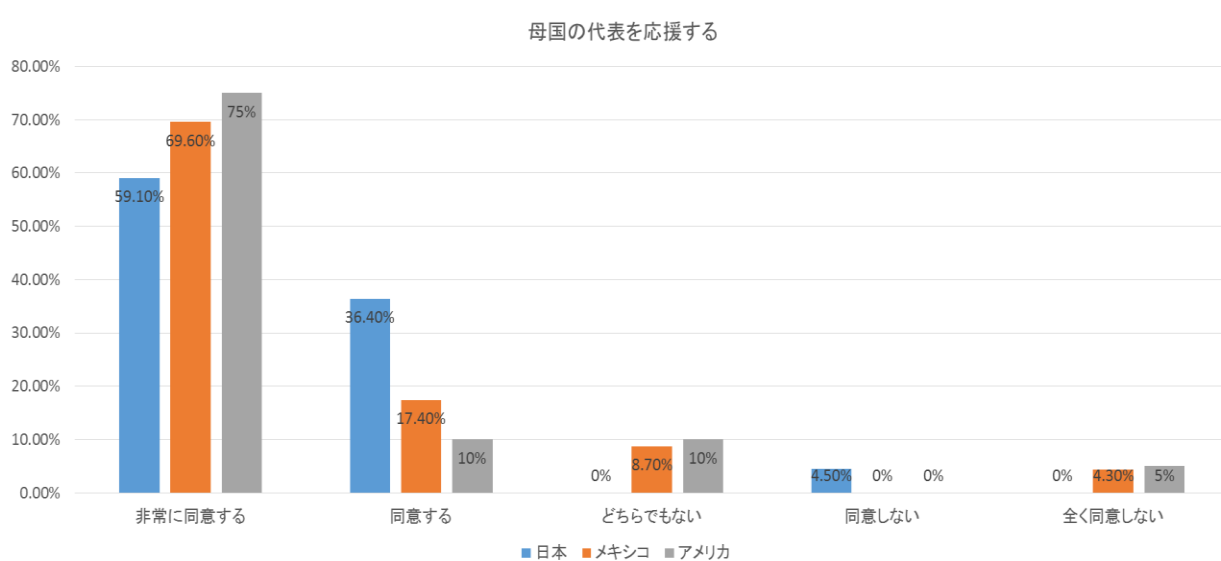


図 1 1 からわかるように、回答者の大部分は自分の国の代表を応援していることがわかった。当然だった。

しかし、他人は他の国の代表を応援するかもしれないと思い、それについて調べたいと思った。次の表が結果を反映していると思われる。

図 1 2 : スポーツのイベントとナショナリズム 2

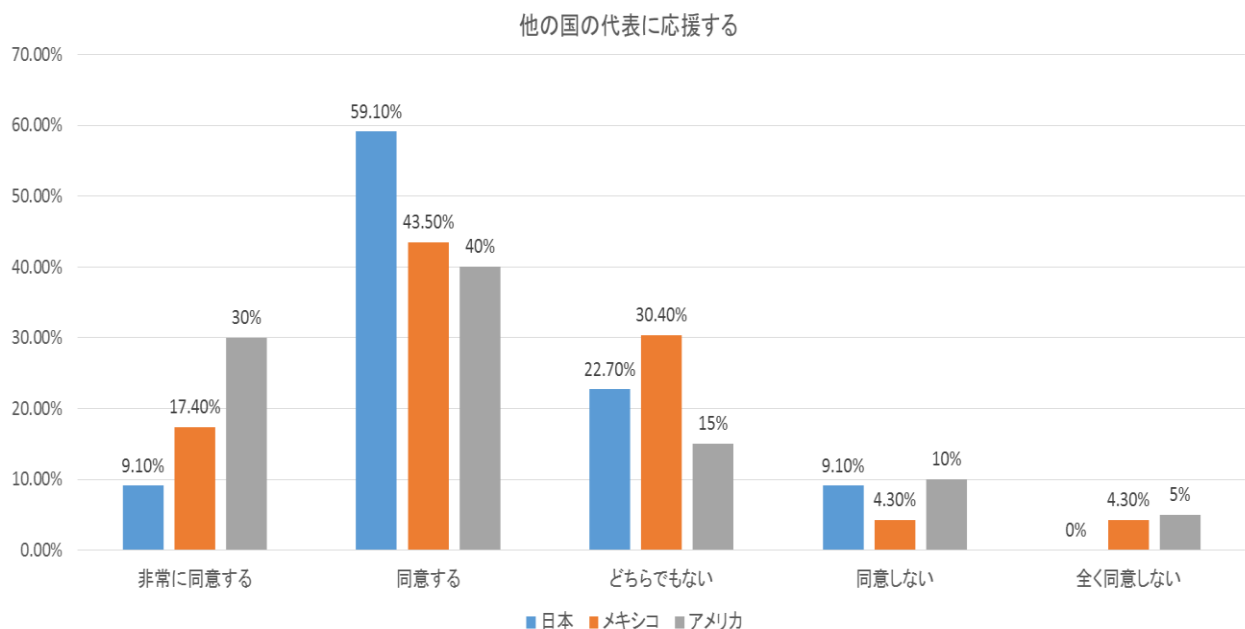


図 1 2 でわかったことは、日本人は時々他の国の代表を応援するのに、アメリカ人はそのようなことはあまりしない、ということだ。

次に、「どうしてその代表を応援しますか。」という質問には、実際に興味深い答えを受け取った。

図 1 3 : スポーツのイベントとナショナリズム 3

日本	メキシコ	アメリカ
母国だから。	メキシコの代表だから	国家代表を応援する、なぜなら私はそこに生まれたから。さらに、選手たちはアメリカの考え方を守るために、サッカーをやる。
日本という国を背負って戦っている集団には、日本人としての誇りがかかっているので応援したくなります。	私のチームが大好きだから	僕はアメリカ人なので、頑張れアメリカ！
日本代表：日本人だから自分の国を応援するのは当たり前だから。	国内代表を応援する、なぜなら私は国家代表に忠実だから。	アメリカ人としての誇りがかかっているので無条件に応援したくなる。
ナショナリズムが奮い立つから	私はいつでも他の国の代表に対する以上の国家代表を応援する。	ここに生まれて、ここに育って、私はそのチームに忠実だ。僕の国家代表を応援する当たり前だ。

国籍にもかかわらず、多くの人々が「ナショナリズム」や「愛国心」そして「誇り」について述べていた（図13参照）。

この研究の背景の中で女子サッカーの歴史について少し話した、その時から現在まで、女子選手が様々な問題を打ち勝つことが出来た。しかし、他の問題を現れた、例えば差別。

図14：サッカーと男女の役割

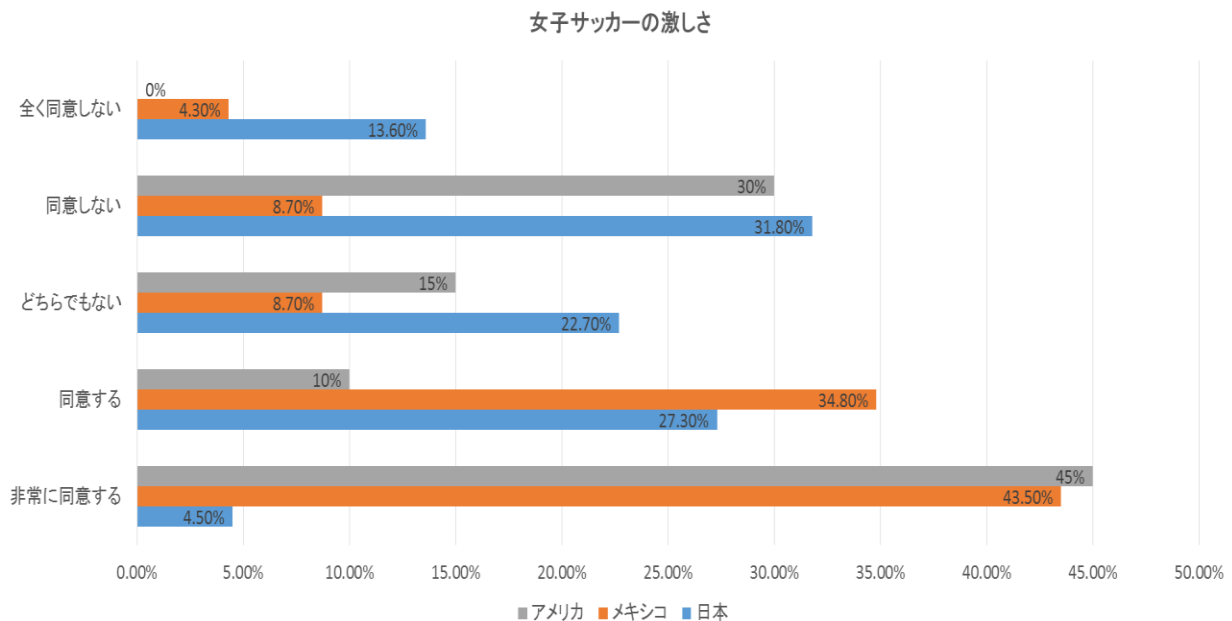
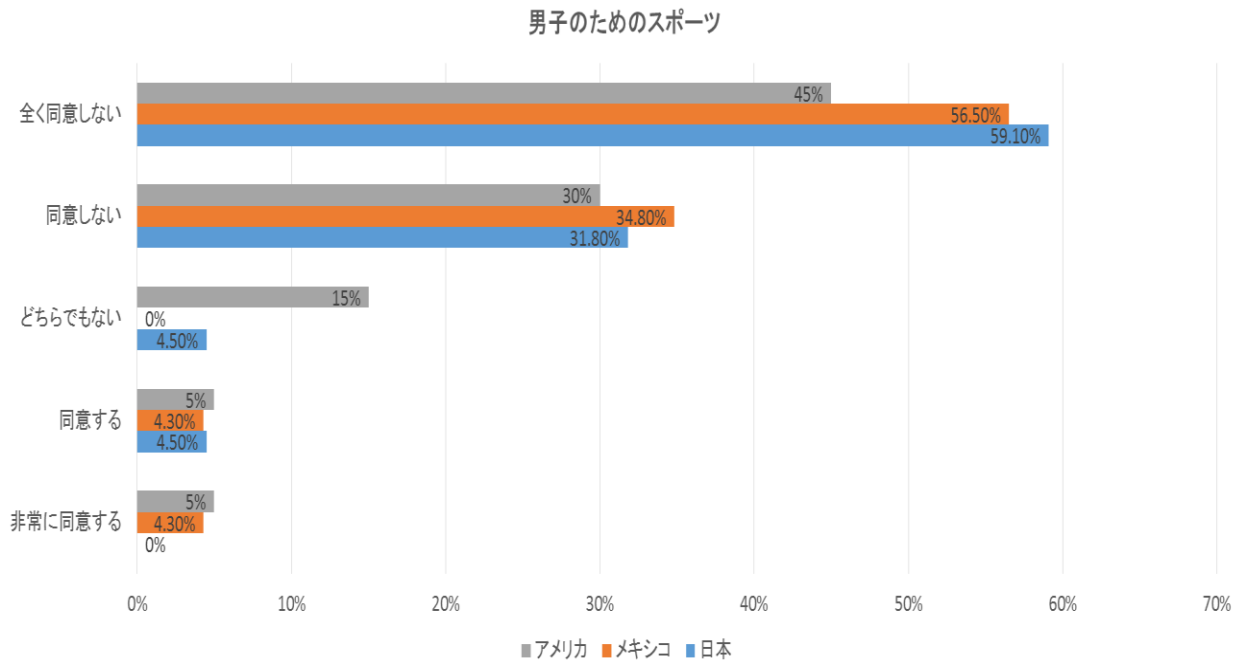


図 1 4 からわかるように、日本人にとって、女子サッカー選手は男子サッカー選手ほど激しく戦えないとしている。一方メキシコ人のほとんどが、またアメリカ人の半数以上が「男子と同じくらい激しい」と同意した。

残念ながら、多くの人々が、サッカーは男子のためのスポーツだ、と考えている。3つの国の参加者の意見も知りたかった。どのように3つの国の考え方が同じ、どこで違い調べたいと思った。

図 1 5 : サッカーと男女の役割 2



メキシコ人とアメリカ人と特に日本人はスポーツとして、女子サッカーを含めることに反対しない (図 1 5 参照)。小さいのに、それが改良だと思う。

移民について話す時に、意見が分かれている、サッカーにも人々は自分の意見を持つ。だから、外国人選手について参加者の意見を知りたいと思った。サッカーの世界にも、意見が分かれている。

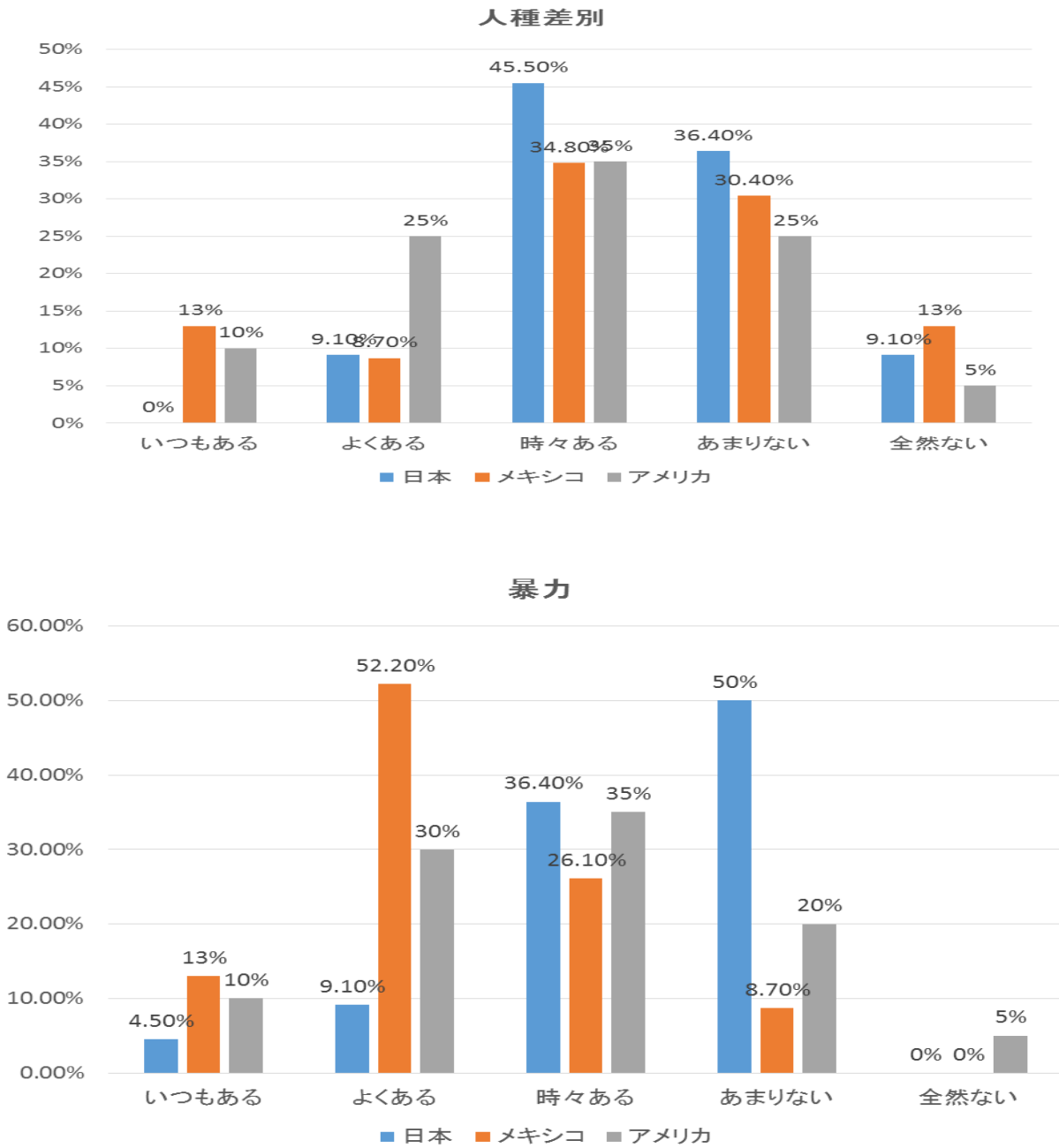
図 1 6 : 外国人の影響

日本	メキシコ	アメリカ
日本人選手にいい刺激を与えと思う	悪い。メキシコに才能ある人多くがいる。しかし、試合の時にあまり参加しない、それは外国人のせいだ。	良い。外国人選手の包含通して才能に変化を与える。更に、アメリカ選手の集団主義を挑んでいる。
良い。なぜならお互い学び合い向上できるから	良い。メキシコでは強力なカンテラ（アカデミシステム）を存在しない。だから、好成績の選手をつくる事ができないと思う。	良い。チームに新しい考え方を寄与する。
あまり多すぎると日本のリーグとは呼べない気がするので多すぎると良くないと思います。	悪い。全部がビジネスだ。実際には、外国人の選手が上手ではない。	悪い。米国製の才能が必要だと思う。
いいと思うなぜならイケメンと言う感じで、女性から人気があるから	良い。なぜならサッカーの世界の中で境目がないから。	悪い。メキシコに才能ある人多くがいる。しかし、試合の時にあまり参加しない、それは外国人のせいだ。

図 1 6 からわかることは、日本人参加者の大部分は、外国人の影響に前向きな態度を示している。しかし、メキシコ人やアメリカ人の参加者の意見が分割された。

移民が多分大問題ではないのに、現在の社会とサッカーでも、他の問題がある、例えば、人種差別や暴力や性差別そしてギャンブルなどがある。その問題について少し調べた。参加者の意見は非常に興味深いと思った、ここに結果を反映している。

図 1 7 : 様々な問題



アメリカでは、人種差別が問題だと思われる一方で、メキシコでは暴力が問題のように見える。日本では、両方の問題が時々あると答えた (図 1 7 参照)。

図18：様々な問題

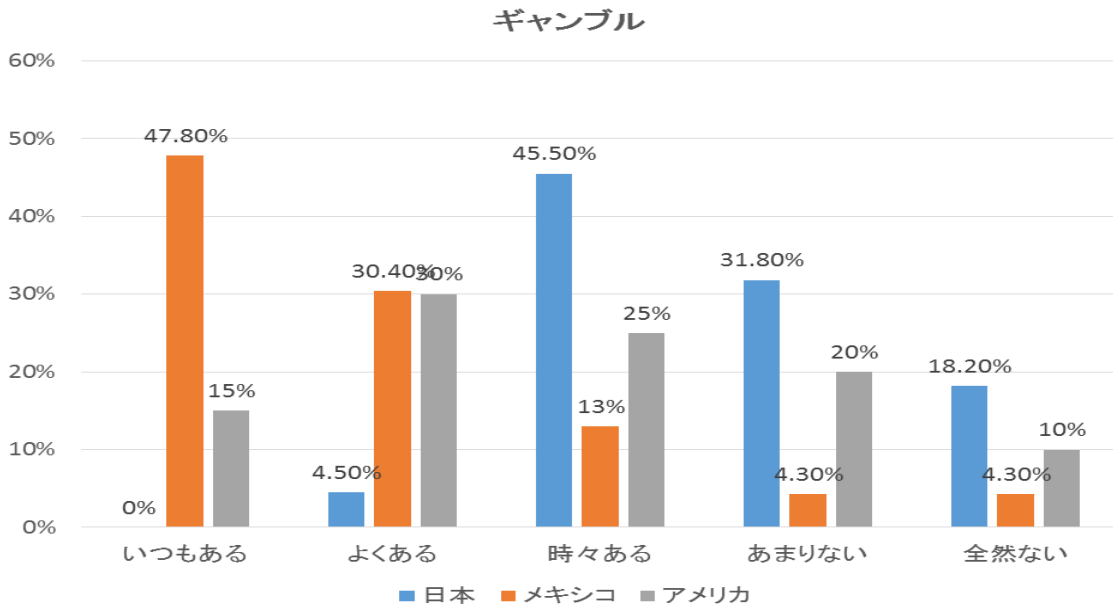
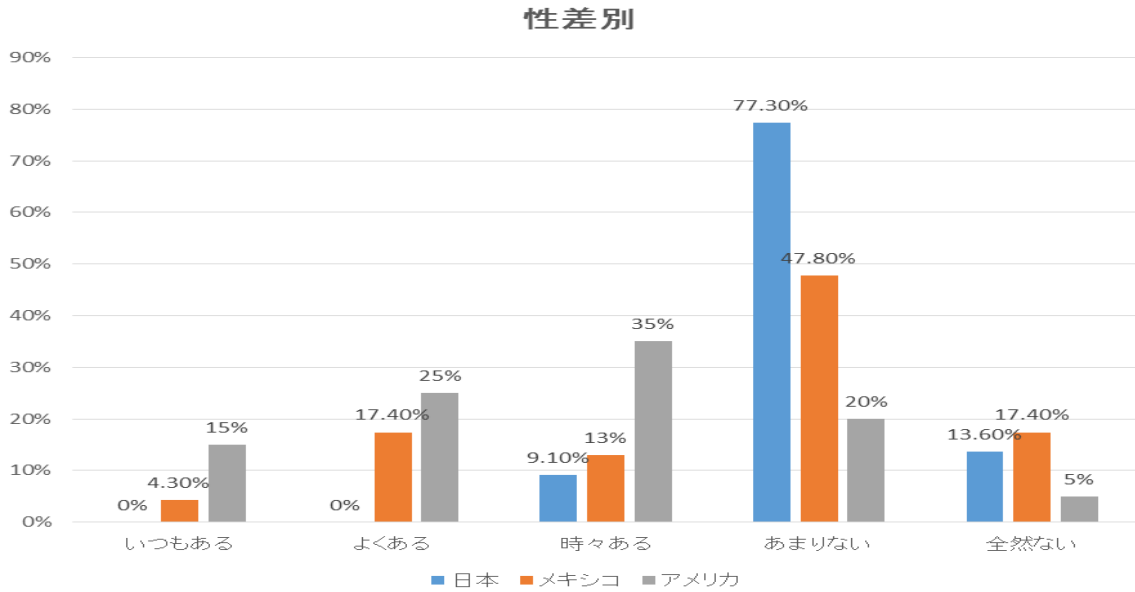


図18からわかることに、アメリカでは、性差別がよくある問題だと答え、一方で、メキシコではギャンブルが頻繁にある問題だとし、日本でも両方の問題が時々あるという結果がでた。

5.2.1. 研究質問 2 の結果まとめ

ワールドカップの間に日本人やメキシコ人そしてアメリカ人は自分の国の代表を応援する。更に、サッカーをより発展させるために、女子サッカーが必要だと考える。しかし、日本人は、男子サッカー選手の才能は、女子選手より高いと位置づけた。アメリカ人の参加者の答えで、アメリカでは性差別がよくある問題であることに気づいた。外国人のことについて日本人参加者の大部分は、外国人の影響に前向きな態度を持っている。しかし、メキシコ人やアメリカ人の参加者の意見が分割された。最後に、様々な問題点は、アメリカでは、人種差別が問題だと思われている一方で、メキシコでは暴力が問題のように見えた。そして日本では両方の問題が時々あるということがわかった。

6. 結論

日本では子供の決定に親の影響が強くないように見える。一方、メキシコは父親の影響が非常に強いと思われる。更に、メキシコの腐敗したシステムのせいで、多くの人々は才能が不十分だと思われ、代わりにコネを信じているようだ。日本とアメリカではその問題を持っていないように見える。メキシコやアメリカでは、ドラッグが大問題なので、サッカーを解決法として考えているようだ。最後に、「自己満足」は、アメリカの個人主義の考え方に基づいていて、日本社会の目標は、「フェアプレー」をするお手本が、全国に広まる事なのかもしれないと思った。残念なことに、人種差別や暴力や性差別及びギャンブルの問題は消すことが難しいだ。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

この研究は大学生を対象にした研究でしたから、一般化するのは難しいだ。しかし、今度は別の年齢層の人々にアンケートを参加し誘いたいと思う。

謝辞

私のアドバイザーの関根繁子教授と齋藤-アボット佳子教授がこのキャップストーンを手伝ってくださったことに感謝している。その上、私の家族や友達そしてクラスメイトにも感謝している。あなた方のお蔭で私は卒業することが出来た。真にありがとうございました。

参考文献

- Althaus, D. "Mexico violence dashes soccer field dreams" *Houston Chronicle* 15 August 2011. Print.
- Chubachi, S. "Soccer: J. League Targets Southeast Asia" *Asahi Shimbun* 27 September 2011. Print.
- Holley, D. "J-League Spells Success: Soccer Fast to Gain Business and Fan Appeal in Japan" *Los Angeles Times* 22 August 1994. Print.
- Light, R & Yasaki, W. (2003). *Breaking the Mould: J League Soccer, Community and Education in Japan*. *Football Studies*, Vol. 6. 37-50.
- Light, R & Yasaki, W. (2003). *J League Soccer and the rekindling of regional identity in Japan*. *Sporting Traditions*, 18(2), 3 1-45.
- Perez, I. "En ocasiones el negocio sepulta las oportunidades" *El economista* 12 August 2014. Print.
- P.R. (2014, August 26). サッカーとバナナ人種差別を根絶しよう. *毎日新聞* Retrieved from <http://mainichi.jp/opinion/news/20140826k0000m040168000c>.
- Sterngold, J. "Tokyo Journal; Japan Falls for Soccer, Leaving Baseball in Lurch" *New York Times* 6 June 1994. Print.
- Watts, J. (1998). Soccer shinhatubai: what are the Japanese consumers making of the J League? In D.P. Martinez (Ed.), *The worlds of Japanese popular culture: gender, shifting boundaries and global cultures* (pp. 181-201). Cambridge: Cambridge University Press.